

わたしたちの町

人 口(男) 4,636人
(女) 5,000人
合 計 9,636人
7 月中の転入 12人
転出 27人
世 帯 数 2,310世帯
(7 月末日住民登録調で)

広 報

あいかわ

昭和56年 8 月22日 第279号 秋田県合川町 編集 総務課 電話 018678-2111

広報は、毎月10日に発行を予定しています。中学校生徒会の委託により、各家庭に配布されますので、届かない場合は役場総務課にお知らせください。
広報へのニュースの提供や意見等もおまちしています。

「すばらしい、私のふるさと!!」

伝統芸能に感激の拍手



第一回ふるさと祭り

合川マトビは今年が第十回。帰省客や町外からの観客に、幻想的な炎の祭りを楽しませてくれました。マトビにあわせて、青年会を中心に第一回ふるさと祭りを開催。町内の伝統芸能が競演しました。上杉子供太鼓、李岱駒踊り、福田獅子舞、道城獅子踊り、上杉獅子踊り、川井駒踊りと、それぞれの芸能に、合川球場をいっぱいにした観衆からは大きな拍手。かけ声や声援が飛びかいました。
祭りのしめくくりは、総参加の町民盆踊り大会。飛び入りの参加者もまじって、合川音頭。の輪が大きくふくれ上がりました。

8月14日

合川マトビにあわせて

大野台に

三つ目の企業誘致決まる

十二月に操業めざす

大野台に三つ目の企業の誘致が決まりました。誘致が決定した高橋電機株式会社(本社長野間岡谷市 高橋一社長)では今年十二月には大野台電機株式会社として当町での操業を計画。操業時は四十人の従業員でスタートし、五十九年には二百人の雇用を予定しています。

男女半々の混合企業

誘致三社で四百四十名の雇用

高橋電機(株)は自動制御装置「ソレノイド」の専業メーカー。この分野では国内をあけており、その市場占有率は三十%に及んでいます。ソレノイドは、コイルの一種で電気製品や自動車をはじめ、事務用機械など近代機器には欠かせない部品です。利用分野は年々拡大しており、業界全体で毎年三十%程度ずつ生産の伸びています。納入先は国内一流企業で、たまたま、アメリカや東南アジア向けの輸出も年々拡大。新会社も、早急な需要の増大に対応するために設立されるものです。
用地面積は一万七千九百平方メートル。建物千八百八十一平方メートル。今年度から五十八年度まで二億四千万円の資本投下が見込まれています。
十二月からの操業に備えて、すでに十六名を町内から採用。操業時四十名、五十七年百名、五十九年二百名の雇用が見込まれ、年間生産額は五十九年二十億円を予定。雇用は男女ほぼ半々ずつの計画です。
工場用地は現在、整地作業が急ピッチで進められており、九月には工場建設に着手。鉄骨平屋建ての工場、事務室、社員室が十一月中には完成します。



十二月操業にむけて造成作業は急ピッチ。

秋まつり

九月は秋祭りの季節です。
三日―道城 七日―雪田 八日―新田目 十日―福田・根田・八幡宿 十一日―駅前 十二日―羽立 十五日―李岱・上杉・下杉・木戸石・美栄・杉山 十六日―川井・増沢。
おみこし、子供相撲など各部落ではそれぞれの催しが行なわれます。秋祭りは、生産を前にしての行事であるため、その年の豊作を祈って年々にぎしさを増しているようです。
祭りは、もともとは祖神氏神様を祭るもので、各家々によってそれぞれの「祭り」を行なっていました。徐々に地域的な統一が進み、明治時代の一村一社の政策によって、ほぼ現在の形ができあがりました。
昨年、「町内のお祭りを統一して、飲み歩きをやめよう」という提案が出されました。年に一度の行事ですから、大いに楽しみたいものですが、ミエ、ムタをなくし、健康状態にも気を配りたいものです。
おみこし、山車、太鼓、笛、金魚すくいなどの夜店も楽しみの一つです。町内の稲作は、七月後半からの好天で、やまも直してきました。今年の秋祭りが、豊作の気配に満ちた明るい祭りになってほしいものです。

ふるさと歳時記 ㊄

集おう!!

大野台野外音楽祭

～大野台野外ステージ竣工式～

ピアノ演奏・郷土芸能・小学生芸能・フォークバンドなど

ゲスト 「花嫁」風でおなじみはしだのりひこ

8月23日(日) 午前10時半～
大野台ハイランド広場

鷹巣阿仁環境衛生大会

(第4回町健康まつり)
8月23日(日)合川中体育館

大野台工業団地に三番目の誘致企業が決まった。それも今年の十二月操業で、事実上、最初の企業となる。ソレノイドという電機部品製造の近代産業である。
若者を町に定着させる悲願は前の二社とあわせて約四百人規模となるので、おおよそ町内の雇用は充たさ

町長日記から

れる。あつぎを徐々に、その家庭に帰す目途がついたことになる。
(義)

合川中学校自然観察クラブ

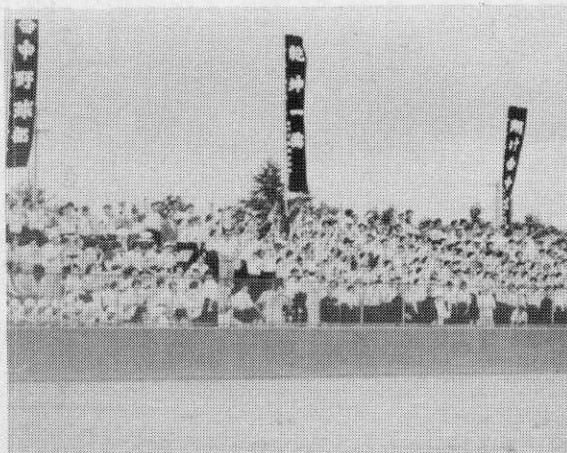
斉藤憲三顕彰賞を受賞

合川中学校の自然観察クラブが科学振興財団斉藤憲三顕彰会から「振興グループ」の指定を受けました。自然観察クラブでは、夏休みを利用して野鳥観察などを行っています。

斉藤憲三顕彰会は、県内で科学振興のための研究を行なっている個人・団体の活動を顕彰し援助しているものです。

合川中学校自然観察クラブはバスケットクラブ員を主体に「愛好者」で結成。体育クラブ活動と文化クラブ活動の両立をめざしています。夏休み期間中は全員で、身近な小鳥を観察研究。テントを張っての早期観察、特定の場所での生態観察など、根気のいる研究にがんばっています。中学生の自然研究グループは県内でも数が少ないため、研究成果が各方面から注目されています。

グループ長の庄司義隆さん（李岱）を中心に観察計画は、自主的に作成。工藤英俊先生の指導で観察記録も着実に集まっています。学校では、顕彰会からの奨学金で自然観察のための用具資材を購入。「自然に親しむ校風を育てたい」と力を入れています。



合川中学校の自然観察クラブが科学振興財団斉藤憲三顕彰会から「振興グループ」の指定を受けました。自然観察クラブでは、夏休みを利用して野鳥観察などを行っています。

富山正信くん

全県優勝

剣道完全制覇

七月三・四日開かれた郡市総合体育大会で合中勢は各種目で活躍。剣道は団体・男子個人・女子個人で優勝し完全制覇を達成しました。

また、七月十七・十九日に開かれた全県陸上競技大会では、富山正信くん（木戸石）が三千メートルで優勝。桜井ひろみさん（下杉）が三種競技で六位に入賞しました。

郡市大会の主な成績は次のとおり。（敬称略）
剣道 団体優勝 個人男子優勝 三沢公彦 同女子優勝 庄司美佐子
バスケット
男子三位 柔道
個人軽量級二位 松岡剛 軽重量級二位 伊藤栄
重量級 三井 野
球 準優勝 テニス 女子団体三位 体操 女子団体四位

うちの子どもとその子 地域の子

町青少年問題協議会と社会を明るくする運動実施委員会では、七月二十日、「青少年の健全育成を考える町民のつどい」を開きました。

「集い」には青少年問題協議会委員のほか、民生児童委員、少年保護育成委員、PTA公民館関係者など百名が参加。学校、家庭、地域から問題点や実践例を出し合いました。

三浦克昭さん（三木田）佐藤キナ子さん（駅前）奥田稔先生（中学校）が話題提供。友だちづくり、地域の中の子育てのあり方に意見が集まりました。

▽ 地域行事に参加させるなど地域ぐるみで子供たちを育てよう。
▽ 大人から声をかけよう。
▽ 自然に親しませ、自由はん

町の人事

八月一日付（内は前任）

- 高橋宮雄 財政課長補佐（財政課主任）
- 金田功子 教育委員会主任（農林課主任）
- 松橋良子 福祉課（総務課）
- 金田悦子 保健課（教育委員会）
- 安部久雄 教育委員会（農林課）
- 松田良夫 農林課（保健課）
- 三浦正基 福祉課（財政課）
- 坂上 満 農林課（福祉課）
- 工藤隆憲 財政課（出納室）
- 鈴木 勲 総務課（福祉課）
- 藤島一夫 建設課（教育委員会）

親の会の連絡会を設置

六月十一日、各部落の親の会代表者が集まり「親の会連絡協議会」を結成しました。

子供たちの健全育成のために、各親の会の連絡協議会を図ろうとするもので、会長には米倉修治さん（駅前）を選出しました。

町民のつどい

青少年の健全育成で

ぼうな遊びの場をつくらう。
▽ 手伝いをさせ、根気よく見守ってやろう
▽ 親は、勇気をもって子供にあたる。
▽ 親の会を育成しよう。
▽ 家庭での対話をふやそう。

善意のご寄付

（敬称略）

（香典返しにかえて）
正田参良 木戸石（故母ミネ）
正田久人 上杉（故祖母ナチ）
田中賢一郎 鎌沢（故妻ミヨ）
杉浦佐一郎 木戸石（故父佐七）
新田恭平 福田（故母）
（広報郵送料として）
埼玉県朝霞市藤折町 神成京子
埼玉県朝霞市藤折町 神成京子

（広報郵送料として）
埼玉県朝霞市藤折町 神成京子
埼玉県朝霞市藤折町 神成京子

慶弔だより

7月届

○おめでとうございます
福岡佑太 孝式長男 三井
吉田悟子 忠明二女 川井
吉田亜紀 勇咲長女 川井
高橋聖子 昭夫二女 八幡
森岡 望 薫 長女 桃栄
藤島望美 武夫三女 木戸石
久住 司 茂 長男 駅前
●おくやみ申し上げます
松井キクノ 新田恭平母
田中ミヨ 賢一郎妻 福田
小林要次郎 65 本人 鎌沢
藤島英夫 68 本人 美栄

およせください

消費生活相談

買い物の苦情など、消費生活の相談は気軽に消費者モニターにおよせください。
（県消費者モニター）
工藤洋子 木戸石電 四六（一〇）
松橋祥子 道城（電 三三二九）

夏の交通安全運動にあわせて、八月七日、合川中学校で大館北秋交通安全弁論大会が開かれ、秋交通安全大会が閉校から九名の弁士が参加。参観者に強い感銘を与えました。二位に選ばれた合川中二年工藤朋職さん（木戸石）の発表をお伝えします。

「あなたです。事故を起こすのも防ぐのも。喜ばしい社会生活の進歩向上の影に、事故と犯罪の激増していることを私達は見のがすわけにはいきません。この、うれうべき事故の第一に挙げられるのが、交通事故であります。しかし、交通事故の恐ろしさを意識している人が数多くないことを裏づける事実が、私達のごく身近に見られるのです。最も多いのは、私達が毎日自転車や通学している場合にあり、一時停止をしない。二列や三列にもなっている。遊び半分、追いかけてくる。いつもというわけではないのですが、急ぐ時とか、めんどくさい時に、悪いと思いつながら

もついついやってしまいます。本当に交通事故の恐ろしさを知っている人は、幾ら急いでいても疲れていても、こんなことはないでしょう。私のクラスのS君は、私達とはちがって、規則正しく乗っています。不思議に思っているのを見て、幼い頃、交通事故にあっていたのです。S君は家族と

ものすごい衝撃でした。正面衝突。突っ込んでいたのです。前面のガラスは破れ、それがS君とお父さんの顔に突きささり、上半身血だらけになって、間もなく病院にかけこまれました。傷は顔の中でも目の上がひどく、すぐ手当をされて事無きを得ましたが、傷はそれだけではなかったのです。一週間も立ってから、



した。これは交通事故の恐ろしさ。S君に忘れさせない、いわば傷跡にもなっているのです。しかし、交通事故の傷跡が残っているのは被害者だけでなく、加害者にも加害者にも交通事故による苦しみや悲しみが残っていると思います。かえって加害者側が大きい場合もあると思います。加害者は治療費だけでなく精神的に

消えないと思います。交通安全ルールは、なぜあるのでしょうか。それは私達の生活から、交通事故をなくすためです。交通ルールを守ってさえいれば、事故は絶対に起きないのです。S君の場合、加害者がルールを無視して運転したことによって、無視して運転したことに原因があります。ルールを無視する気持は、「なあに事故にはならないさ」という交通規則を甘く見た考えから出て来ます。そんな人達がどんどん増えたら私達の生活はどうなるでしょう。人間は社会で協同生活をしていける人と人が互いにかかり合っている力を合わせて明るく住みよい社会を築こうとしています。交通安全の意識もその中から生まれると思います。

私達中学生は自転車通学ですが、かならずいかに安全な運転をする場合もありますから自動車の運転手もたいへん迷惑しています。私達が交通事故にまきこまれない、という保障はどこにもありません。これからはいいかげんな運転をしていると、他人事で

はすまされなくなってしまう。S君のように事故の恐ろしさを知っているから注意する。というのではなく、誰もが事故を予防できなければいけないと思います。「なあに事故にはならないさ」と一人だけが思っているのではなく、みんなが無意識のうちに心のすみに思っているから、次々に交通事故は、被害者を生みだしていくのです。「被害者にも加害者にもなりたくない」。それは誰もが思っていることだと思います。私もいままでは、「なあに事故にはならないさ」という気持ちでいました。が、これを機会に、一時停止、手信号、横断にないということを守り、点検、整備を絶対に忘れないようにします。みなさん、「なあに事故にはならないさ」という気持ちをあなただの心から追いついてください。そうすることによって私達自身が事故から守られるのです。